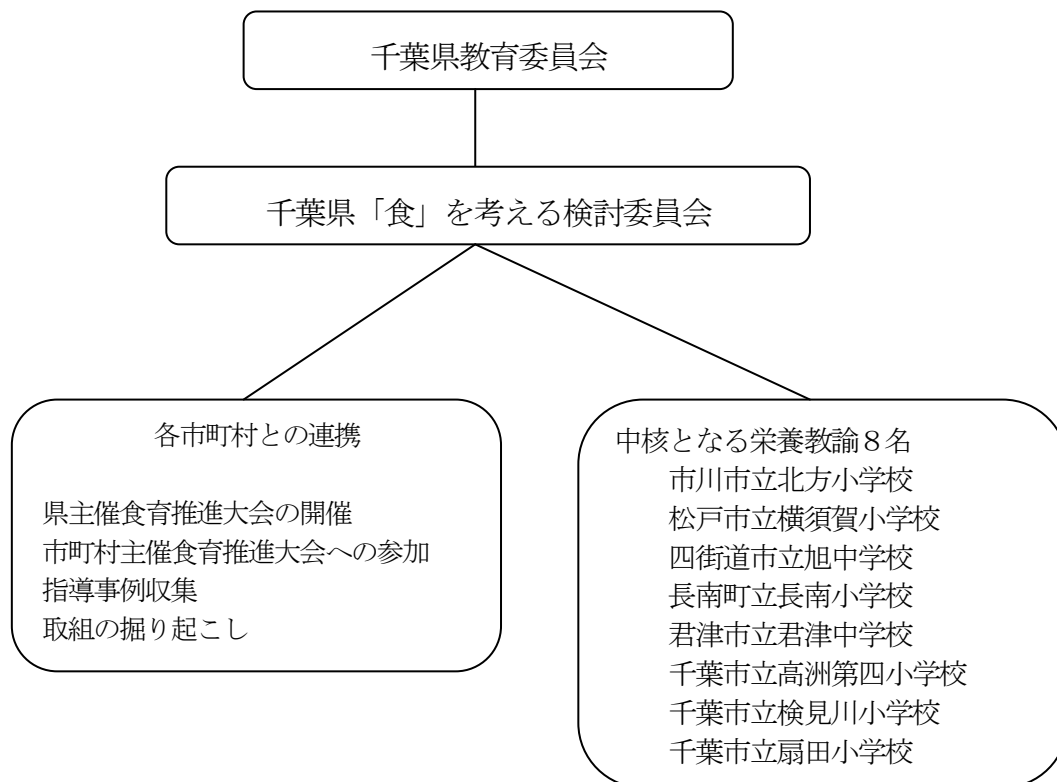


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	千葉県
推進地域名	千葉県

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	県全体へ食育指導の啓発を促し、一層推進させる取組
1	中核となる栄養教諭のテーマ研究の実践。 (1) 各栄養教諭が、各学校等における食育の推進を図る上で課題となっていることを明確にする。 - ア 食に関する知識の伝承や食事マナーが習慣化されていない。 - イ 正しい姿勢で食べていない、食文化の伝承がうまくなされていない。 - ウ 偏食傾向の児童が見られ、好き嫌いのある児童が多い。 - エ 給食をいつも残す児童が見られる。 - オ 食に関する感謝の気持ちが薄い。 - カ 食への関心が低く、自ら健康について深く考える態度が身についていない。 - キ 朝食摂取率が高いが、栄養バランスがとれていない。 - ク 共同調理場では、各学校により残量の差が見られ、生活習慣が懸念される。 (2) 各栄養教諭が、課題からテーマを設定し研究を進める。 - ア 給食の献立を活用した食に関する指導の効果的な方策 - イ よりよい食生活を身に付けた児童の育成 - ウ 望ましい食習慣を実践し、自らの健康を考えることができる子どもの育成 - エ 給食の食べ残しを減らす方策

- オ 食を楽しむ、感謝し、考える子を育てる食育指導
- カ 生涯にわたる健康教育の基礎
- キ 望ましい食習慣を形成する食に関する指導のあり方
- ク 共同調理場方式による食に関する指導

(3) 各栄養教諭が、学校・家庭・地域と連携・協力を図りながら、各自が設定した研究テーマにそって実践的取組を行う。

- ア 食に関する指導の充実
 - 食育及び献立年間計画の作成
 - 給食の時間における指導の充実
 - 給食委員会活動の活動
 - 食材を教材とした授業
 - 教科・領域における指導の充実
- イ 校内体制づくりの推進
- ウ 学校・家庭・地域との連携強化
 - 学校給食試食会
 - 学校保健委員会
 - 親子料理教室
 - 就学時健康診断時等の食育講座
 - 地元業者、生産者による出前授業
 - 地域活動への参画
- エ 地産地消の推進
 - 地元の食材活用
- オ 給食時間の訪問
- カ 生活習慣病予防教室の実践
- キ 給食だより発行の増加
- ク アンケート調査による実践の検証

(4) 研究のまとめを作成し、各種研修会において資料をもとに食育を推進する。

22年度以降の各種研修会において、これらの中核となった栄養教諭の実践事例を、他の栄養教諭、学校栄養職員、学校、行政等に広く提供し啓発することにより、取り組みを広める。

2 「栄養教諭を中核とした食育推進大会」を実施。

千葉県・富津市・我孫子市の取組を全県下に紹介。

- (1) 富津市と我孫子市の実践発表会
- (2) 中核となる栄養教諭による食育推進シンポジウム
- (3) 講演会 講師 和洋女子大学学長 坂本元子 先生
演題 「これからの学校教育における食育の推進について」

具体的計画

1 食に関する実態調査の実施(平成21年度 1学期実施)

中核となる栄養教諭が、児童生徒・保護者・教員・地域等における、「食に関する実態調査」を実施し、その調査結果から各学校・地域の課題を明確にし、テーマを設定し、研究を進めてきた。

2 授業研修会の実施

中核となる栄養教諭を中心に、食育の授業研修会を実施する。相互に研修し協議を持つことにより、各自が設定した課題に沿った実践的取組をする。また他の栄養教諭もこの授業研修会に参加し、研修するとともに広く研究について啓発する場とする。さらに、中核となる栄養教諭が、経験豊富な先輩による授業実践を逆に参観する場を設け、研修の推進を図ってきた。

3 食に関する実態調査の実施(平成21年度 2～3学期実施)

アンケート「食に関する実態調査」から、食育推進の効果について検証を行った。

アンケート集計により、各栄養教諭が課題、テーマとして取り組んできた項目に関しては、確実に児童・生徒食に関する意識が向上し、その成果が表れている。児童生徒の実態から、継続的・計画的な取り組みが各々の成果につながったものである。

数字で変化のあった事項について

主なアンケート結果

代表学校1 児童 628 名

1学期(上段)、3学期(下段) 給食アンケート集計結果

1 きらいな食べ物がありますか。

はい 74.8 % いいえ 23.7 %

はい 80.4 % いいえ 19.6 %

2 苦手な食べ物が食事に出たときはどうしますか、

がんばって食べる 45.2 % 一口だけ食べる 28.4 % まったく食べない 15.1 % 苦手なものがない 8 %

がんばって食べる 62.4 % 一口だけ食べる 22.8 % まったく食べない 9.6 % 苦手なものがない 2.9 %

3 残菜調査

主食 8 % 牛乳 2.3 % 主菜 5.4 % 副菜 10.8 %

主食 4.1 % 牛乳 2.4 % 主菜 3.1 % 副菜 7.3 %

4 食事の時に栄養のバランスを考えて食べていますか。

はい 56.4 %

はい 57.8 %

代表学校2 児童 89 名

1学期から3学期 給食アンケート集計結果

1 栄養のバランスについて気にして食べるようになった。

15 % から 56 % へ増加

- | |
|--|
| 2 料理づくりについて興味関心が高くなった
87 % から 90 % へ増加 |
| 3 自分で料理をよく作るようになった
9 % から 36 % へ増加 |
| 4 家の人と食事についてよく話すようになった
22 % から 54 % へ増加 |

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

授業研究を継続して実施し、栄養教諭相互に実践・参観・研修することにより、より食に関する指導や全体的な取組について研修が深められた。また、他の栄養教諭、学校栄養職員、担任教員等も中核となる栄養教諭の授業を参観し、研修することにより食に関する指導や全体的な取組について相互に深められた。さらに、保護者や地域の方々にも参観していただくことにより、より連携の土壌が構築されていった。

給食たより等、保護者や地域への情報発信は、学校での食の指導の課題は何か、またどのように進められ、何をどう取り組んでいるのかが伝えられた。さらに、栄養素、生活習慣病、児童生徒の実態等、食に関する様々な情報を提供することができ、効果的であった。

中核となる各栄養教諭はそれぞれの課題、テーマにより実践的な内容に取り組んできたが、共通テーマとして「学校・家庭・地域と連携して」ということを副題とした。どの課題に対しても、学校だけではなく家庭や地域とともに推進して行かなくては、成果として表れないことを踏まえ、取り組んできた。その成果として一つ一つの内容が広い視野で取り組むことができ、多くの協力体勢で成立していくことを実感してきたと思われる。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

栄養教諭と担任教師とのチームティーチングを進めるにあたり、効果的なあり方も進められてきている。相互に専門的な立場からの指導により、理解を深め、意欲的に授業に取り組む児童生徒が多くなっている。ただ、充実した授業を進めるためには、どうしても打ち合わせ等の時間がより必要であり、そのための時間の確保が難しい。調理場での衛生管理を含めた調理業務を考慮すると、どうしても授業の回数が制限されてしまう。平素な時間運用の中でより授業を進めていくための効果的な方法が課題である。

保護者の食に対する関心を、全体的に高めることができていると思う。地域・家庭との連携に取り組むことにより食への意識が高く、取り組みに前向きな家庭が増えている。その反面、そうでない家庭との差が如実である。改善への意欲・意識の低い家庭への働きかけをどう工夫するかが、大きな課題であり大きな鍵を握っている。

食に関する取り組みにより、急に改善するというよりも徐々に浸透しながら、効果が表れると思われる。長期にわたり継続した指導と、事後の検証が重要である。

中核となる栄養教諭8名を中心に、それぞれ学校・地域にて取り組んできた。当該学校・児童生徒・保護者・地域全体には確実に成果が上げられた。今後、どのように他の地域において、継続的・計画的に取り組んでいくかが、特に栄養教諭の配置が遅れている地域において、推進していくかが課題である。

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	千葉県
推進地域名	我孫子市

事業推進の体制

我孫子市教育委員会



我孫子市の[食]を考える検討委員会

- ・食育推進事業の基本方針・目標の策定
- ・食育推進事業計画の策定
- ・食育推進事業の推進
- ・食育推進事業の評価

- ・食育推進事業計画の具体的な検討
- ・食育推進事業の実践内容協議・検討
- ・食育推進事業の推進
- ・食育指導に係る資料及び啓発用資料作成
- ・食生活に関するアンケート作成



中心実施校（湖北小学校）

我孫子市の小中学校

- ・食育指導の授業実践
- ・食育指導での地域・家庭との連携の推進

栄養教諭（2人）

学校栄養職員（17人）

- ・事業の中核的な役割
- ・研究のための情報収集と提供
- ・生産者と連携した学校給食

- ・食生活に関するアンケート調査の実施
- ・食育教育の実践
- ・教科等と関連づけた教材づくり
- ・食育指導での地域・家庭との連携推進

1. 具体的取組等について

テーマ1	食に関する指導の方法や内容等のあり方
内容	① 食に関する指導の全体計画・年間計画を作成。 ② 全体計画・年間計画に沿った授業実践を行う。 ③ 教科（家庭・体育・理科・生活・社会等）・総合的な学習の時間・学級活動の中で食育に関連づけた授業研究。 ④ 食生活アンケートの結果より現状や課題を把握し、新学習要領の改訂に伴った、「学校教育における食育カリキュラム」について内容を見直す。
テーマ2	児童・生徒の食への関心を高めるため地場産物の活用と、学校・地域・保護者の連携のあり方
内容	① 食育学習の際に、生産者をゲストティーチャーとして招いたり、生産者を訪問したりして、地場産物への関心を高め、生産者への感謝の気持ちや郷土愛を育む。 ② 給食試食会・親子料理講習会・保護者料理教室・保護者会などを通して、保護者に食育の関心を持たせ、地場産物への理解とより望ましい食習慣を身につけさせるよう働きかける。 ③ 地域の様々な立場の代表者からなる食に関する検討委員会を開催し、示唆を仰ぐ。
テーマ3	地場産物の学校給食への導入と、児童・生徒の食生活改善
内容	① 地場産物を生かした学校給食への導入と、児童・生徒の食生活改善 ② 学校産農産物を給食に活用することにより、地域や環境とのつながりを理解させ、自らの食生活に関心を持つよう働きかける。 ③ 食生活アンケートの結果より、各校の課題を把握し、テーマに沿った食生活の改善を進める。

テーマ１～３に共通する具体的計画

1. 検討委員会の設置

家庭・地域と連携し、食育の研究・推進をするため、本年度は、多くの関係機関の代表者からなる、我孫子市の「食」に関する指導のあり方を考える検討委員会を設置した。

(1) 構成委員 19名

- ① 市教育委員会（学校教育課・指導課・学校給食担当） 6名
- ② 湖北小学校（校長・教頭・研究主任・給食主任・栄養教諭・養護教諭・PTA代表） 7名
- ③ 湖北小学校医 ④ 東葛ふたば農協共同組合 経済部長 ⑤ 市環境生活部 農政課主幹
- ⑥ 農業青壮年会 生産者代表 ⑦ 市学校栄養士会（小学校・中学校代表） 2名

(2) 開催日と内容

- ・第1回 平成21年5月14日（木）
[教育委員会事業説明、食育推進事業実施校長挨拶、検討委員紹介、湖北小の取組み概要]
- ・第2回 平成21年7月9日（木）
[食生活アンケート報告、1回目授業研報告、食育を通しての学校・地域・家庭への啓発の進め方]
- ・第3回 平成21年10月1日（木）
[夏休み料理教室・作業班活動・食育推進校視察・2回目授業研の報告、食育推進事業今後の取組み]
- ・第4回 平成21年11月27日（金）
[3～4回目授業研・我孫子産野菜の日・地産地消の日の報告、2回目食生活アンケートについて、食育を通しての学校・地域・家庭への啓発の進め方]
- ・第5回 平成22年2月4日（木）
[県食育推進大会の発表内容（21年度の湖北小・市教育委員会・栄養士会作業班・検討委員会の各取組みと、成果と課題）]

2. 食生活アンケート（第1回 平成21年5月、第2回 21年12月実施） *集計結果は後に示す

- (1) 内容……児童生徒の給食や家庭の食生活の実態と傾向を把握するため、5月と12月に小学5年生と中学1年生を対象とする同じ内容の調査を実施した。また、その保護者にも食育に対する認識と学校給食への期待、家庭の行事食や千葉産物の使用について調査をした。

(2) アンケート結果による課題

- ① 給食を残さず食べる工夫 ⑦ 不定愁訴を訴える児童生徒を減らす
- ② 我孫子産米・我孫子産野菜の認知度を上げる ⑧ 家庭での行事食の取組を広げる
- ③ 朝食を食べてこない児童生徒を減らす ⑨ 献立表・給食だよりを食育媒体として更に活用する
- ④ 毎日の排便を促す食物繊維の摂取量を上げる ⑩ 保護者の食育に対する認識と学校給食に期待することの把握
- ⑤ 鉄分の摂取量を上げる ⑪ 保護者の地産地消に対する取組を広げる
- ⑥ スポーツ飲料と炭酸飲料の摂取量を下げる

(3) 課題に対する取組の方向性

考察から課題を絞って、各校では、学校の状況に合わせた食指導の充実を図り、市全体では保護者対象ヘルシークッキング教室の開催・食育カリキュラムの見直し・啓発用リーフレットの作成・地産地消の献立研究・米の掲示資料作成・先進校視察などを行ってきた。

3. 保護者対象 「夏休みヘルシークッキング教室」(平成21年8月21日)

- (1) 内容 アンケート結果より毎日排便のない小・中学生が多いことに注目し、食物繊維の多い食品を使用した学校給食メニューの料理講習会を市内3箇所で開催した。

*日 時 平成21年8月21日

*会 場 天王台近隣センター・湖北地区公民館・新木近隣センター

*メニュー 子供に人気があり、家庭で作りやすい料理5品
ターメリックライス・チリコンカーネ・ポテトポタージュ
ひじきのマリネ・黒ごまスコーン

*講師及び担当者 市内小・中学校の栄養教諭・栄養士



(2) 成果

- ① 食物繊維の豊富な食材の調理法がわかり、家庭でも作りたいという意見が多く、好評だった。
- ② 望ましい食習慣をする上で、保護者が家庭で気をつけている点がわかり、参考になった。
- ③ 定期的企画の希望があり、今後も家庭の食生活改善に向けての取り組み事業として続けることになった。
- ④ 保護者が給食に対して望むことや取り上げて欲しいレシピを知ることができた。
- ⑤ 栄養教諭・栄養職員は、協力して意欲的に取り組み、資質向上につながった。

(3) 課題

- ① 講習会日程・開催通知文書の配布時期・集金方法について検討する。
- ② 学校給食に対する理解を更に深め、家庭の食生活に役立ち、実践しやすい献立の研究。
- ③ 食生活に関心が薄い保護者に対するアプローチ方法を継続して検討する。

4. 食育授業研修会の開催 [会場校：湖北小学校]

- ① 取り組み：公開授業研究（授業展開・研究協議）を実施し、各校の食育の推進に役立てる。
- ② 実施：第1回 平成21年 6月26日
6年 家庭科 「生活を見直そう」（朝食にあうおかずを作ろう）
第2回 平成21年 9月 8日
3年 特別活動「朝食をなぜ食べるのか」
第3回 平成21年10月29日
4年 保健体育「すくすく育て わたしのからだ」
第4回 平成21年11月16日
2年 生活科 「町 大すき」（あびこのやさいについて）
④ 講師指導：千葉県保健医療大学 栄養学科教授 渡邊智子 氏
⑤ 参加者：市内栄養教諭・栄養士、食育推進の検討委員、(教科により、給食主任・養護教諭も参加)



5. 食育カリキュラム集の改訂

食育カリキュラム集は、食育の全体構想や地産地消推進の見地から、主に「食と農」の体験学習に関する指導案事例等をまとめたものであった。今年度、食育推進事業に取り組む中、全校で2度にわたる食生活アンケートを実施した結果、新たな課題が浮かび、また新学習指導要領も改訂されたことから、市の食育カリキュラムの内容を見直し、今回「食と農」に限らない食育全体に関する小・中学校の指導案を追加掲載した。

6. リーフレットの作成

児童・生徒及び教職員・保護者を対象に、朝食の奨め・栄養バランスのとり方・我孫子農産物の紹介等の内容を盛り込んだ食育啓発リーフレットを作成した。

7. 地産地消の献立の研究と推進

(1) 取り組み

- ① 「あびこ産野菜の日」の設定し、市内10校で毎月1回我孫子産野菜を使用した。（使用可能な野菜・各校で使用した野菜とその献立についても調査し、次年度に生かす。）
11月の地産地消の推進月間には、我孫子産野菜に取り組んでいない残りの9校でも、県産農水産物を使った献立を1日設け、取り組んだ。（我孫子産及び県産品を含む使用割合は、平均55%）
- ② 野菜展示や給食メモによる説明（畑の取材・生産者紹介・給食の調理過程）、生産者と児童の手紙の交流。
- ③ そら豆やとうもろこしの皮むきや農作物生産の体験学習等の食育の授業に農家や農政課の方を招き、直接教わる機会を設けた。

(2) 成果

- ① 我孫子産野菜を使用している認知度が上がった。
- ② 地元の野菜に愛着を感じ、地元の農業に対する興味関心が高まった。

(3) 課題

- ① 「あびこ産野菜の日」を全19校に普及・拡大していくにはどうしたらよいか。
- ② 配送などに関して関係機関と協議し、協力体制の構築を図っていく必要がある。

8. 米の掲示資料

給食米（我孫子産コシヒカリ）の作付地図や生産者の顔写真を全校に紹介、また、新米の時期は稲穂・肌ぬか・米ぬか・玄米・精白米等も一新し、子ども達が触ったり興味を持つように掲示している。

9. 先進校視察 京都市立梅小路小学校 [平成19年・20年度 食育推進事業 文部科学省指定校]

① 視察内容 京都市の給食概要と梅小路小学校の実践について

② 視察者の感想

栄養教諭の仕事全体に占める「食に関する指導」の割合が非常に多いという印象をもった。そして目の前の子供だけが意識するのではなく、家庭や地域など広く目を向けていることを感じた。食生活は家庭の影響が大きい、学校で食に関する授業をする時、家庭の中まで入り込めないで歯がゆい思いをすることがある。我孫子市では、献立作成から調理まで安全でおいしい給食を子供たちに提供するように努力している。その献立を中心に据えて、学校・家庭・地域の連携を推進している梅小路小学校の実践を参考に視野を広くして食に関する取り組みを行っていきたい。

数字で変化のあった事項について

食生活アンケートの結果（1回目 平成21年 5月実施、 2回目 平成21年 12月実施）

学年	質 問	1. 抽出対象 小学5年生 460人 中学1年生 187人	2. 抽出対象 小5年生 448人 中1年生 182人
小学5年	①給食時間を楽しみにしている	91%	92%
	②給食は残さず食べている	全部食べる 38%、殆ど食べる 31%	全部食べる 48%、殆ど食べる 32%
	③嫌いなものも食べるようにしている	全部食べる 37%、半分食べる 34% 少し食べる 24%	全部食べる 38%、半分食べる 35% 少し食べる 23%
	④家で給食のことも話す	65%	68%
	⑤給食に我孫子産米が使われていることを知っている	65%	83%
	⑥給食に我孫子産野菜が使われていることを知っている	69%	83%
	⑦朝ごはんを毎日食べているか	93%	92%
	⑧排便は毎日ある	61%	62%
中学1年	①給食は残さず食べている	全部食べる 40%、殆ど食べる 36%	全部食べる 47%、殆ど食べる 34%
	②給食に我孫子産米が使われていることを知っている	66%	82%
	③給食に我孫子産野菜が使われていることを知っている	52%	66%
	④朝食を毎日食べている	82%	80%
	⑤カルシウムの多い食品を食べている	よく食べる55%、時々食べる 39%	よく食べる50%、時々食べる 40%
	⑥鉄分の多い食品を食べている	よく食べる29%、時々食べる 52%	よく食べる 27%、時々食べる 51%
	⑦野菜料理を食べている	よく食べる 65%、時々食べる 27%	よく食べる 62%、時々食べる 31%
	⑧スポーツ飲料・炭酸飲料を飲む	よく飲む 44%、時々飲む 36%	よく飲む 34%、時々飲む 38%
	⑨コンビニを利用する	よく利用する 24% 時々利用する 50%	よく利用する 21% 時々利用する 52%
	⑩睡眠時間は	8時間以上 35%、7時間 40% 6時間 17%	8時間以上 20%、7時間 45% 6時間 24%
	⑪疲れが残っていると感じる	ない 10% ほとんどない 39% 3～4日 36%	ない 9% ほとんどない 41% 3～4日 35%
	⑫排便は毎日ある	53%	59%

＊アンケート結果より、
数値が伸びた事項の考察＊

1. 給食を残さず食べる指導について

栄養士がクラス訪問や残菜調査の取組みを担当と連携して行ってきたことにより、食べる割合が増加した。
一方で、小学校の嫌いなものを食べるようにしている割合は、あまり変わっていないため、食事前に食べため、食事前に食べる量を調整しているか、嫌いなものが減ったとも考えられる。

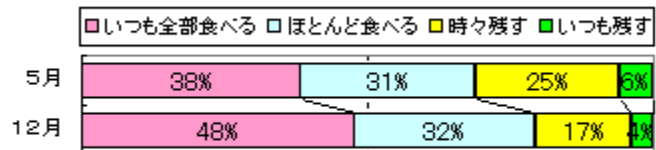
まだ、各校バラツキがあり、引き続き担任と連携して、給食に出る献立は、苦手でも少しずつ食べる意欲を持たせるような毎日の指導が大切である。

2. 給食に我孫子産米と使用していることと我孫子産野菜の認知度について

我孫子産野菜の米と野菜の両方を導入している学校の方が使用の認知は高いが、7ヶ月間に全校伸びている。今後も、我孫子産野菜を使う日に合わせ、児童・生徒に関心を引き付けようなPR・農産物の生産に関する授業・教材としての掲示物など、認知度をより上げる努力は必要である。また、農政課等と協議し、我孫子産野菜の導入校を増やしていきたい。

1 給食の喫食状況

【小学5年生】

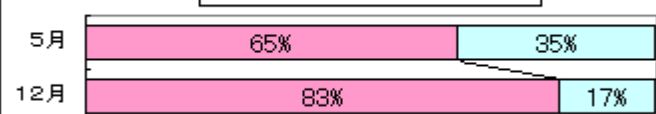


【中学1年生】

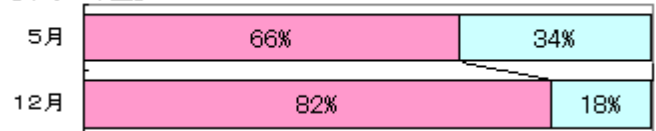


2 ①我孫子産米の認知度

【小学5年生】

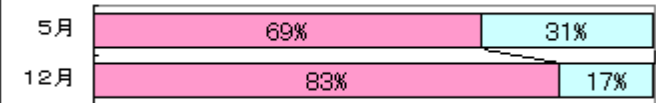


【中学1年生】

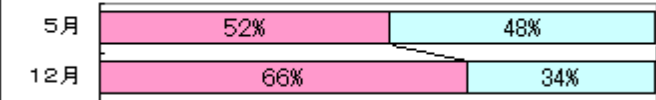


2 ② 我孫子産野菜の認知度

【小学5年生】



【中学1年生】



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ① 検討委員会を設置し、様々な立場の代表者と協議しながら食育を実践したことで、その中核となる栄養教諭・栄養職員は、幅広い視野を持つことができたようになった。
- ② 同じアンケートを食育推進事業への取り組み前後に実施する中で、課題も整理され、栄養教諭・栄養職員の実践力を高め、給食を残さず食べる指導や地産地消の周知など、大きな成果を出すことができた。
- ③ 食育の公開授業研究会を4回持ち、専門家の指導を受けられたことは、栄養教諭・栄養職員及び関係職員の意識向上につながった。
- ④ 学校給食で、市内及び県内産物の使用を増やし、全小・中学校を対象に使用野菜の調査を続けることで、今後も地産地消を推進すべき方向性が見えた。

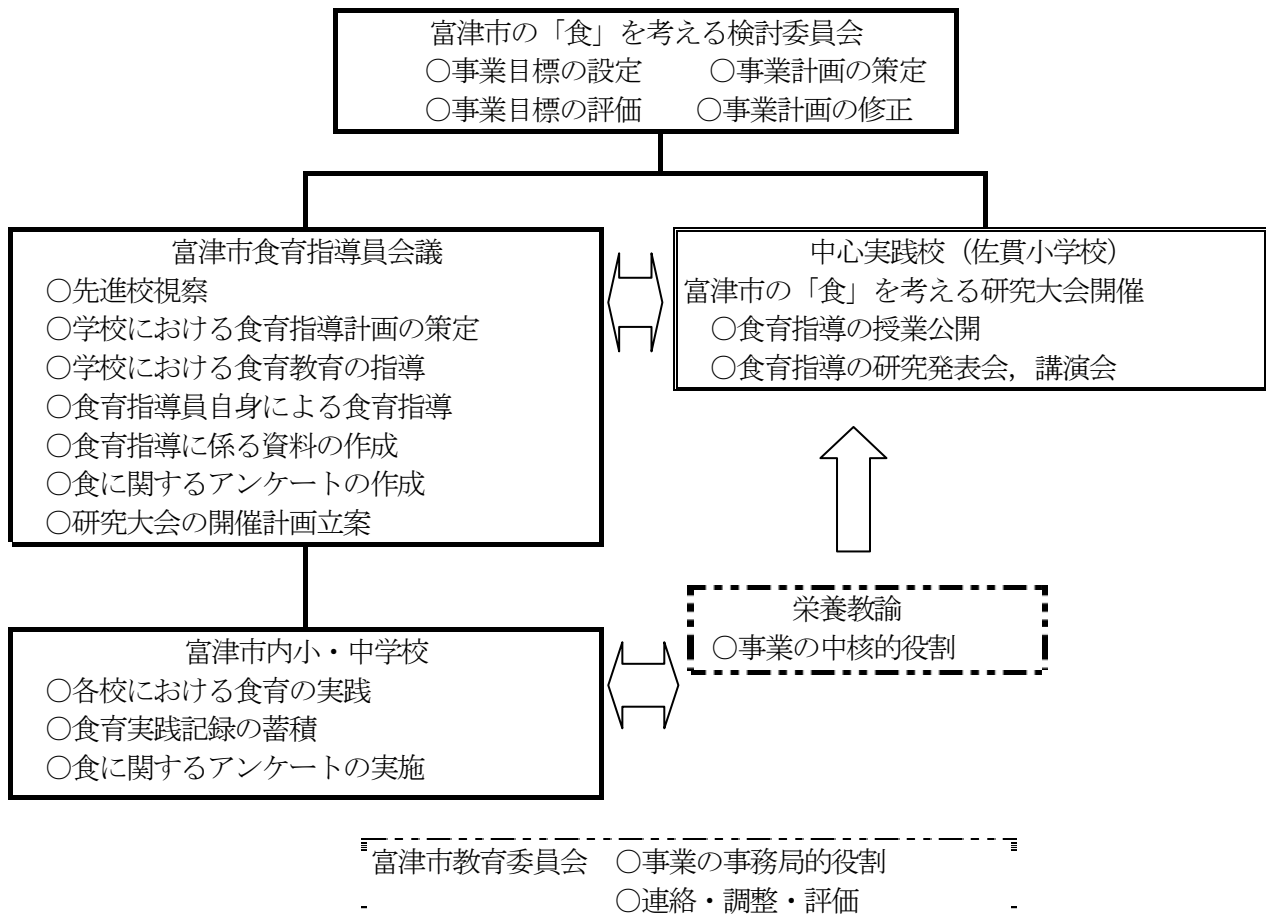
今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ① 家庭や地域と連携した食育を進めるために、様々な代表者からなる検討組織を今後も存続する。
- ② 定期的に食生活アンケートを実施し、現状を把握する。栄養教諭・栄養職員は、子どもの実態に即した食育を担当・給食主任・養護教諭等と共に進めていく。
- ③ 食摂取や生活習慣の改善については、保護者を巻き込み、指導方法を検討しながら継続する必要がある。
- ④ 今後も市内の学校で食育授業研究会を行い、専門家の指導を受けながら栄養教諭・栄養職員の資質向上を図る。
- ⑤ 給食に市内及び県内の農産物を積極的に活用して、児童生徒・保護者に、更に地産地消の大切さを伝えていく。

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	千葉県
推進地域名	富津市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	子どもの健康を保持増進し、望ましい食習慣を形成するための方策
○市内の食に関する実態をアンケート調査により把握し、本市の課題を明らかにする ○食育指導員による先進地域視察を行う ○課題に対応するための家庭への啓発を目的としたパンフレットを作成し、配布する ○「富津市の『食』を考える研究大会」を中心実践校にて開催する ・教職員・保護者・地域を対象とした食に関する講演会 ・食育指導の授業公開、研究発表 ○事業終了後のアンケート調査を基に、事業目標の達成度・課題・改善方策について明らかにする	
テーマ2	各教科等における食に関する指導を充実させるための方策

- 食育指導に関する資料を収集・整理する
- 食育「指導資料集」を作成する
- 食育指導員の派遣により、各校の食育指導の充実を図る
- 食育指導に関する授業を近隣の学校に公開する

テーマ１～２に共通する具体的計画

I 子どもの健康を保持増進し、望ましい食習慣を形成するための方策

1 アンケート集計により明らかになった本市小・中学生の朝食摂取実態

—調査対象— 市内小学5年生 187名・中学2年生 148名

(1) 朝ごはんを食べているか

朝ごはんを食べないことがある小学生は8.0%、中学生は18.2%いる

(2) 朝ごはんは何を食べたか

朝ごはん「主食＋主菜＋副菜」を食べている小学生は29.9%、中学生は26.4%と少ない

毎日、朝ごはんを食べている小学生は92.0%、中学生は81.8%とほとんどの子どもが朝ごはんを食べている。しかし、バランスがよいとされる「主食＋主菜＋副菜」をそろえて食べている子どもは多くない。また、朝ごはんを食べていない理由は「食べる時間がない」「食欲がない」がほとんどで、規則正しい生活習慣が身についていない子どもたちもいる。

2 食育指導員による先進地域視察

- (1) 習志野市立谷津小学校 6月26日（金）11時40分から16時30分 ※事業外
- (2) 君津市立君津中学校 10月 1日（木）13時40分から16時30分
- (3) 木更津市立高柳小学校 11月10日（火）13時40分から16時30分

など、各実践校の授業について視察を行った。

食育指導員からは「自分の授業と比較することができた」「新しい視点での食育指導の在り方を見つけた」「本市の実践に取り入れていきたい」などの感想や意見が出されていることや、先進校の実践を参考にして本市の授業実践におけるスキルアップを図っていくことが必要であることから、さらに、進めていきたいと考える。

3 課題に対応するための家庭への啓発を目的としたパンフレットについて

食育指導員（栄養士部会）7名を中心として食育パンフレットを作成した。

各小・中学校保護者への配布、11月に実施した研究大会や市主催生涯学習推進大会などを通じて地域の方々への配布を実施した。

(1) 配布対象者

ア 各学校保護者及び学校職員（PTA会員数）、平成22年度新入学児童保護者（※）

NO	学 校 名	配布数	NO	学 校 名	配布数	イ ウ エ オ 研究大会 150部 各公民館（3館） 150部 市役所関係機関窓口 150部 富津市生涯学習推進大会 600部
1	青堀小学校	603	10	金谷小学校	66	
2	富津小学校	301	11	環小学校	111	
3	飯野小学校	252	12	関豊小学校	39	
4	大貫小学校	304	13	富津中学校	596	
5	吉野小学校	208	14	大貫中学校	295	
6	佐貫小学校	159	15	佐貫中学校	105	
7	湊小学校	194	16	天羽中学校	220	
8	天神山小学校	73	17	天羽東中学	90	
9	竹岡小学校	84				

4 「富津市の『食』を考える研究大会」の開催について

(1) 実施日 平成21年11月26日(木) 13時20分～16時20分

(2) 実施校 富津市立佐貫小学校

(3) 実施内容

ア 研究発表 栄養教諭 藤田 陽子

イ 公開授業

学 年	教科・領域	おもな学習内容	指 導 者
第2学年	学級活動	元気のでる朝ごはんを知ろう ー3つのパワーで元気いっぱいー	T1 石井由美子(担任) T2 岡本 直子(飯野小学校栄養職員)
第4学年	学級活動	元気のでる朝ごはんを考えよう ー1日のスタートは朝ごはんからー	T1 並木 茂子(担任) T2 藤田 陽子(本校栄養教諭)
第5学年	学級活動	元気のでる朝ごはんを考えよう ー主食・主菜・副菜でパワーアップー	T1 松永 亮(担任) T2 石井 恵子(青堀小栄養職員)

ウ 教職員・保護者・地域を対象とした食に関する講演会

家庭・地域とともに楽しく食育

講 師 千葉県立保健医療大学 教授 渡邊 智子 先生

5 事業目標の達成度・課題・改善方策について

2月事業終了後にアンケート調査により、明らかにし成果報告書としてまとめた。

II 各教科等における食に関する指導を充実させるための方策

1 食育指導に関する資料の収集・整理

食育指導に係る今年度実施分の実践指導案・資料だけでなく、これまで本市の栄養職員が実践した指導についてできる限り資料として収集し、学年別、内容別に整理した。

2 食育「指導資料集」について

前述1について各学年別に整理し指導資料として配布した。

各学年別の内訳

学 年	事例数	教科等	実 践 例
小学校1年	9	学級活動	楽しく給食を食べよう(学)牛乳の秘密を知ろう(学)
小学校2年	6	学級活動	野菜のパワーって何だろう(学)
小学校3年	8	学級活動	おやつは本当にこれでいいのかな(学)
小学校4年	5	学級活動	夏の上手な水分補給(学)
小学校5年	5	社会・家庭・保健・学級活動	これからの食糧生産と私たち(社)
小学校6年	4	社会・家庭・保健・学級活動	病気の予防(保健)
特別支援	2	学級活動	大豆博士になろう(学)
中学校1年	3	学級活動・家庭	中学生に必要な栄養と食事(学)
中学校2年	2	学級活動・家庭	給食の献立を考えよう(学)
中学校3年	1	社会	日本の食糧問題(社)

3 食育指導員の派遣について

(1) 本市では、下記のとおりの実施要項を作成し、各学校の派遣要請に基づき教育センターで調整の上、派遣決定書及び派遣依頼書を出し、全小中学校の食育の充実に努めている。

实施要項

[illegible]

派遣申請書

[illegible]

派遣決定書

[illegible]

(2) 指導員の構成について（7名構成）

本市栄養教諭および栄養職員にて構成

(3) 本年度の食育指導員授業実施回数

	学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	個別	延べ回数
	派遣回数	18	17	10	10	7	6	4	3	0	6	81

(4) 実践内容例

栄養と食事、朝食	夏休み中の食生活について（おやつ）
朝食に合うおかず作り	給食および食生活について
給食の約束	献立の作成
栄養素について	生活習慣病を予防するために
よくかんで食べよう	昼食の献立作成
調理の仕方や衛生面で気をつけること	好き嫌いしないで食べる
朝ご飯でパワーアップ	生活習慣病検査事後指導
生活習慣病を予防するために	食べ物のはたらき、おやつに含まれる糖分・油分

4 食育指導に関する授業公開について

「富津市の『食』を考える研究大会」の中で3クラスにて展開(前述)

数字で変化のあった事項について

1 「食育指導員」(栄養職員)の派遣による食育指導回数について

(1) 平成20年度教科指導員派遣回数と本年度の比較

前年度の食育指導員の派遣については、年間 29 回 28%となっているが、今年度の派遣回数は、81 回と前年度の 2 倍以上の回数となっている。各学校の食育に対する意識が高まっていることが伺える。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

1 食育パンフレットの作成について

[illegible]

食育指導員（栄養士部会）7名を中心として食育パンフレットを作成し、各小・中学校保護者へ配布した。また、研究大会や市主催生涯学習推進大会などを通じて地域の方々への配布を実施した。

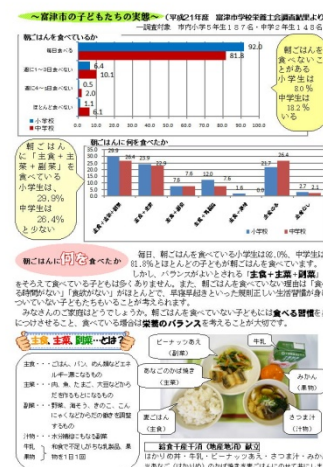
このパンフレットによって食への関心を高めたり、朝食をとる児童生徒の割合を高めたりすることが期待できる。

成果については、児童生徒への追跡アンケートや保護者等へのアンケートによって検証してみると 75.3%の保護者が参考になったと回答していた。

2 その他の広報活動について

本市広報や教育委員会広報を通して定期的に市民向け啓発記事を掲載する予定となった。

市広報→年 2 回掲載
教育委員会広報→年 1 回

[illegible]

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- (1) 富津市食育指導計画に基づいた指導内容を確立することができたので、今後は、小中学生が9年間で着実に身につけることができるように、各校で実践を積み重ねていく必要がある。
- (2) 中学生の意識をみると食に対する意識の低さがうかがわれる。この意識を変えていくためにも中学生に対する食育指導の実践を増やしていく必要がある。
- (3) 児童の実態に合った指導を行うためにも、実施校との打ち合わせの工夫をする必要がある。また、授業後の子供の変容についても把握しながら実践をしていく必要がある。(食育に関する学習履歴について市の年間計画とあわせて作成するなどの工夫)
- (4) 学校(特に養護教諭など)との連携を深めて個別指導の充実を図り、児童生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行うなど健康教育の推進を図っていく必要がある。
- (5) 『いきいきちばっ子』などの教材の活用を進め、児童生徒への指導の質の向上を図っていく必要がある。
- (6) 授業実践の場やパンフレット配布の機会をどのように確保していくか検討していく必要がある。
- (7) 食育指導の充実のためには、地産地消(千産千消)の取り組みについても推進していくことが大切であると考ええる。そのため生産者やJA、関係機関等との連携を一層進める必要がある。